



取締役会の実効性評価

日油は、年に1回、取締役の実効性に関する分析・評価を行います。

日油は、2016年度から実効性評価を毎年実施していますが、2022年度は外部機関による質問票を用い、全取締役10名を対象に、取締役実効性評価アンケートを実施しました。

アンケートは、5段階評価と自由記載を組み合わせることで、定量評価と定性評価の両側面から、現状の把握と課題の抽出を図りました。

回答方法は外部機関に直接回答することで匿名性を確保しました。また、質問票の集計、分析についても、客観性を確保し、今後の取締役会の実効性をさらに高めることを目的に外部機関に委託しています。

外部機関の集計、分析結果をもとに、2023年4月および5月の取締役会で審議、評価しました。2022年度の実効性評価の結果と今後の改善点については、以下の通りです。

2022年度の実効性評価の結果の概要

日油取締役会は、経営戦略に照らし必要な知識・経験・能力等の多様性を相応に確保するとともに、社外取締役の経験・知見を活かすための適切な機会を提供しています。これにより、社外取締役がキャリア・専門性等を踏まえ自由闊達に意見を述べ、取締役会としてオープンで活発な議論がなされるとともに、重要な案件には十分な審議時間を確保するなど、概ね適切に運営されていることを確認しました。

2021年度の実効性評価で認識された課題のう

ち、経営トップの後継者計画については、指名委員会で育成プロセスの進捗確認や議論を半年ごとに行うなどの改善が見られ、また株主との建設的な対話の取り組みについても、所管部門から報告を受け取締役会で深度ある議論がなされました。

今後の改善点

引き続き、経営トップの後継者計画を始めとするガバナンス体制全般の一層の充実を図っていくことを確認しました。

アンケートの質問事項 (全30問)

- 取締役会の役割・機能 (全5問)
- 取締役会の規模・構成 (全4問)
- 取締役会の運営 (全5問)
- 監査機関等との連携 (全4問)
- 社外取締役との関係 (全3問)
- 株主・投資家との関係 (全3問)
- 取締役会機能の今後の方向性 (全1問)
- 改善度 (全1問)
- 自由記載 (全4問)